

ものづくり教室  
～藍の生葉染め体験～

【日時】7月27日(火)

【講師】藍・愛をつむぐ会のみなさん

嘉瀬公民館にある嘉瀬藍染未来工房にて、藍染めを体験してきました。各々好きな生地を選び、調合された生葉の液に浸け15分ほど揉み込み、液が酸化して黒くなると新たな液に交換して揉み込む、これを2回ほど繰り返して、水洗いして30分程度干すと様々な模様の藍染めスカーフが完成し、集合写真の撮影時には、早速首に巻いて写真に納まる方など、みなさん笑顔で大満足のご様子でした。



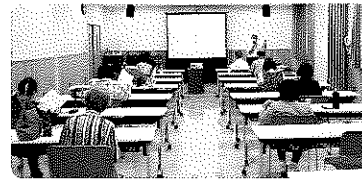
「共に生きる」人権学習講座  
「障がいのある人と人権」

～誰もが住みよい社会をつくるため～

【日時】8月4日(水)

【講師】佐賀市社会同和教育指導員 大島 信行さん

普段私たちが知る以上に様々な障がいがあること、障がいのある人がどのくらいいるのか、障がいがある人を取り巻く社会環境の変化や法律の施行、障がいがある人が直面する人権問題、誰もが住みよい社会をつくるために必要なバリアフリーの実現、障がいのある人からのメッセージ等をご紹介します。

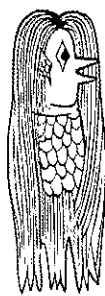


※開催を予定しておりましたが、8/19(木) 思斉館大学・8/20(金) 食を楽しむ教室「そば打ち体験」・8/25(水) ものづくり教室・9/1(水)「共に生きる」人権学習講座(現地研修)は、県内の新型コロナウイルス感染症の感染急拡大により開催中止となりました。

新型コロナウイルス感染症  
拡大防止に努めましょう!

全国的に感染が急拡大している新型コロナウイルス感染症、佐賀県内でも同様に感染者が急増しています。日常生活においても、「手洗い」「手指消毒」「マスクの着用」「こまめな換気」「三密を避ける」など、基本的な感染予防の徹底を改めてお願いします。

知らないうちに、拡めちゃうから。



STOP!  
感染拡大  
— COVID-19 —



(※厚生労働省HPより)

佐賀市からのお知らせ

これからの季節は大雨や台風等の災害に注意が必要なことから、「なぜ防災に男女双方の視点が必要なのか」考えてみましょう。

8月の豪雨の際には大雨特別警報が出され、市内の広範囲に避難勧告が発令されたため、多くの方が避難所運営等に従事されました。避難所の開設・運営においては、男女のニーズの違いや子育て家庭等のニーズに配慮することが重要です。

また、女性、子ども、若者、高齢者、障がい者等の多様な意見を踏まえた避難所運営を行う必要があることから、管理責任者や自治的な運営組織の役員には男女両方が参画することが大切です。

メッセージ

- ①被災者の命と暮らしが守られる → 女性、男性それぞれに現れる困難やニーズに適切な対応ができる。
- ②被災者の避難生活の安全・安心につながる → 女性の性被害など防犯対策に貢献できる。
- ③多様な人たちがつながるきっかけになる → 応援・受援関係、多様な支援関係者間の連携をより実質的で効果のあるものにできる。
- ④復旧・復興対策が促進される → 女性のためだけでなく、災害対策・被災者支援全般の質の向上と、家庭・地域の経済再建を含めた早期復興に直結する。